

豊後大神氏の系譜の抄録

大神姓緒方系賀来氏系図抄（豊後国誌）

從五位下大野郡大領職（豊後国誌に三輪君子首五世孫肥前介大神朝臣良臣豊後介となる仁和二年886）

大神良臣

大野郡領寛平四年892 豊後大神姓三七家の祖

庶幾

大神惟基

惟政、高千穂太郎、三田井氏の祖（935年に続く）

政次

阿南、松尾、小原、大都留、武富、橋爪、田尻、入倉、大神氏の祖

惟季

野尻三郎

惟則

植田四郎、吉藤、太田、野津原、麦生、田次、行弘氏の祖

惟定

大野氏の祖

惟基

臼杵九郎大夫、戸次、佐伯、堅田、野尻、高野、賀来氏の祖、緒方の荘に移り緒方権大夫と称す。大友興廢記に父惟基が天慶四年（881）藤原純友の乱に参加した罪をあがなうために大船数隻に大唐の珍物九州土産金銀珠玉を乗せ上洛、帝喜び惟盛を大神朝臣権大夫に任じた

惟盛

基平
榮基、大津、大牟田、朽綱、敷方氏の祖。大友初代能直守護職として入国の時高崎山にて切腹した大野大基はこの子孫

惟平
惟衡、白杵大六
白杵大七
惟隆、白杵氏に続く

惟用
惟高

惟義、緒方三郎、伊能、吾妻鏡に出る勇者、元暦元年(1184)宇佐神宮をこわし、沼田に流され後ゆるされる

惟栄
佐伯四郎

惟家
三重氏、建久(1200頃) 戸次太郎

惟通

佐伯三郎、三河守道喜入道、大友初代能直の臣、賀来初代大分郡賀来城主、九六才で死亡、源平盛衰記に一の谷の合戦に参加、賀来荘地頭とあり

惟康

惟頼
四郎左衛門、刑部少輔
刑部少輔
右衛門尉
進士四郎兵衛

惟綱

惟直

惟久

惟興
二郎、下毛郡大畑賀来城主、中津大畑賀来氏の祖

三郎、下毛郡犬丸城主

惟貞

四郎、築城郡八田村塩田城主

惟成

太郎左衛門 孫三郎大友親時に仕え文永十一年(1194)、弘安四年(1221)の元来襲時に博多にて功績あり

政直

政広

大輔、惟永、大友四代五代に仕え元冠戦に功あり、弘安凶田帳(1278)に賀来庄二百町地頭職とあり

惟之

孫三郎、伊豆守、貞宗に仕え元弘三年(1333)九州

四郎左衛門、土佐守、伊豆守、大友貞親に仕える

探題北条英時と博多に戦い首十五をとる

政光

惟光

弾正少弼建武三年(1255)足利尊氏九州下陣時大友氏時に従い多々良浜にて菊池武敏と戦い戦死

惟持

宇佐宮僧 孫三郎、右衛門大夫、進士兵衛、寛山大友七代八代に仕え延元元年(1339)森木の役に功あり

源智

惟興

戸次采女の子、四郎右衛門太夫、氏時に仕え康安六年(1356)八月六日菊池武光と香椎で戦い戦死

惟勝

直勝 右衛門太夫氏継に従い菊池武光と戦い敗れる。貞治元年九月九日(1362) 直宗 四郎兵衛、右衛門太夫九九才

惟正 日向守、覚信入道 右京亮 兵部太夫、肥後、国東の戦に功あり 四郎兵衛 四郎左衛門
惟広 惟景 景広 惟清

惟徳 四郎左衛門、右衛門太夫、道定専立入道 右衛門太夫、寛政四年(1493)生大友義鑑に仕え一字を給う
主税 鑑保 享禄三年三月四日賀来の騒動にて死す(1530)

惟道 賀来の騒動に参加、佐伯に逃れる

惟重

孫兵衛、豊前水田城主弘治三年(1595)大友義鎮(宗麟)に仕え永禄四年(1591)彦山の衆徒が大友に反したとき大友につく。天正元年(1573)落城宇佐郡広谷村に浪居する

全慶

専順、孫兵衛、築城郡宇留津城主天正十四年(1586)豊臣秀吉島津義久を討つ時島津側の香春城主高橋鑑種に人質としてとられていたため、子の宇留津城主盛勝は、降参すれば一命本領安堵と知りつつ戦い全滅する

久盛

源介、新右衛門

景勝

刑部少輔、賀来地頭、鑑保の弟？、母は佐伯惟信の女享禄の騒動の後に佐伯に逃れ、後許されて大分由原八幡宮大宮司となる。天正十五年（1587）薩軍に下り動静を大友に知らせて功あり（豊後遺事）、以後代々由原宮司をしていたが明治以後不明

鎮綱

長女は佐田弾正の室

享禄騒動後旧領の二割を給う。

統幸

次女は大畑賀来統直の室

大炊助、備後守、右衛門大夫、道春、騒動後佐田村広谷に住む天正三年（1575）没、室は佐田弾正の女。

惟綱

佐田賀来氏の祖

景吉

城井城主宇都宮鎮房の臣後藤氏の養子となる。

惟保

黒田家臣となる、宝歴（1751）頃賀来六郎右衛門一千石あり、熊本の賀来氏か

景親